

小中一貫教育全国サミット

11月9日(金)、10日(土)、「小中一貫教育全国サミット」が大槌学園や吉里吉里学園などを会場に開かれました。今回で13回目となるこのサミットは「すべての子どもたちに『豊かな学び』と『確かな学び』を保障する小中一貫教育」をテーマに開催され、全国から、のべ1600名以上の参加者が、東北では初開催となる当町を訪れました。

9日は大槌学園、吉里吉里学園の公開授業が行われ、全国から集まった教育関係者らに向け大槌の小中一貫教育の成果を発信しました。

10日は、テーマ別の分科会が5つに分けて行われ、13の自治体の取組み事例が発



公開授業の様子

表されました。その後の全体会では、吉里吉里学園による「ふるさと科」郷土芸能の発表、大槌学園9年生の語り部による発表、実行委員長である伊藤正治教育長によるまとめが行われ、参加者からの大きな拍手とともに、サミットの幕を閉じました。本サミットの運営では、学校、地域、PTAなどが一丸となって取り組み、来町者への誘導やおもてなし、会場運営や昼食時のさんまのつみれ入りわかめのみそ汁などの提供、物産品の販売など、全国からの参加者を町を挙げて歓迎しました。全国規模の大会は無事成功し、大槌の教育について理解を深めていただく素晴らしい機会となりました。

参加者の声

- ・どの学校の発表も共感でき、どこも学力向上のために頑張っていることが分かりました。それぞれの学校の課題を分析し、どう克服していくか常に考えていかなければならないと感じました。
- ・吉里吉里学園の郷土芸能、大槌学園の語り部、思いのこもる発表にとても感動しました。
- ・子どもたち自身が自分たちで町をつくっていかこうとする姿勢は見習いたいです。
- ・発表が素晴らしく、町の力、子どもの力を感じました。町づくりは人づくり、人づくりは教育、まさにそれが小中一貫教育の取り組みだと思いました。
- ・実際に被災した生徒たちの話に涙がとまりませんでした。今年、大槌でサミットが開催されたことに心から感謝します。
- ・地域を挙げて取り組みをされている様子が見える、あたたかい雰囲気でのサミットでした。



学校、地域、PTAが協力しておもてなし



大槌学園9年生の語り部



参加者による共同宣言



吉里吉里学園の郷土芸能発表



おおつち鮭まつり 今年も人気 鮭のつかみどり



12月2日(日)、恒例の「おおつち鮭まつり」が盛大に行われ、会場となった大槌魚市場は大勢の人で賑わいました。毎年の人気イベントである「鮭のつかみどり」には、今年も町内外から多くの人々が参加し、地元の設定網で獲れた活きのいい鮭を追いかけました。盛岡市から訪れ、つかみどりを体験した女性は、「仕事柄、観光イベントに興味があり、楽しそうに参加しました。捕まえたと思っても逃げてしまうので大変でしたが、とても楽しかったです」と笑顔を見せていました。会場ではその他、新巻鮭などの海の幸の販売や、昨年好評だったセリ体験などで賑わい、鮭汁のお振る舞いや鮭バーベキューセットに行列ができるなど、訪れた人たちは大槌の海の恵みを満喫しました。

おおつち鮭まつり 千代田が盛況

12月14日(金)には、東京都千代田区のちよだプラットフォームスクエア内を会場に、「おおつち鮭まつり 千代田」が開催され、首都圏に住む大槌町関係者など100名以上が集いました。このイベントは、東日本大震災以降、職員派遣などの支援をしていた千代田区との交流イベントとして、大槌町観光協会主催で行われました。会場には千代田区長も参加され、来場者は鮭のちゃんちゃん焼きやいぐらご飯、磯ラーメン、地ビールなど、大槌の特産品を堪能しながら、大槌への理解を深めました。



町観光協会主催で行われました。会場には千代田区長も参加され、来場者は鮭のちゃんちゃん焼きやいぐらご飯、磯ラーメン、地ビールなど、大槌の特産品を堪能しながら、大槌への理解を深めました。

